

今月のことば

やり直しのきかぬ
人生であるが
見直すことは
できる

金子大榮

明治から昭和にかけて活躍された浄土真宗の僧侶、金子大榮さんの言葉です。人生は後戻りはできないけれど、過去を問い直して今を生きることにはできる。そして、受けとめられなかった出来事や自分の姿とも和解できるんだよ、と聞こえます。

十一月 同朋会

十一月十三日

第二土曜日

午後一時から三時

徳泉寺本堂にて

内容 勤行・法話

持ち物 念珠、勤行本

月に一度の聞法会、仏法を聞いて

て心のお洗濯はいかがですか。

どなたでもご参加できます。

境内の花々



萩(はぎ)

2022年度カレンダー



ご希望の方は徳泉寺まで

『徳泉寺報』後記

一昨年までみなさんで作っていた報恩講のお齋(お食事)を再現して家族でいただきました。メニューは白飯、がんもどき、白和え、お浸し、味噌汁、漬物です。美味しく懐かしく手を合わせました。

十月同朋会 前任職法話より

「続・煩惱について」

煩惱は八万四千といわれるほど数限りなくあり、私たちは皆そのすべてを持ち合わせています。彼にはあつて私にはない、そういう煩惱がはたしてあるのでしょうか。「気が合うというのはたまたま今現れている煩惱の種類が似ているということ」であり、いつ違う煩惱が現れて合わなくなってしまうかわからないのが私たちなのでしょう。

人間というものは何かに悩まされているのではなく、何かについての思いに悩まされています。自分の思い、自分の心に自分が悩まされているのです。そういう心を煩惱といい、そういう心の始末がどうしてもつかない人間のことを凡夫と呼んでいます。

親鸞聖人は「自分の凡夫の身を指して「煩惱具足のわれら」とおっしゃっています。煩惱を自覚するということに悲しみ懺悔する心が生まれ、そういう生き方をひるがえすということが起きてくるのです。

元大谷大学学長の小川一乗さんが結婚披露宴の祝辞としていわれた言葉に「思いどおりにいかない人が側(そば)に居て、初めて思いどおりにしたい私の心が見えてくる」というものがあります。自分の心のおりにいかない人の姿に私の頭が下がる時、私が私の煩惱に出会う時なのでしょう。その悲しみを通して、違いを認めるといふことや心が通じるという関係がひらかれていくのではないのでしょうか。